

学修時間・学修行動調査（平成 29 年度後期） 分析結果

学習支援センター IR 推進室

平成 30 年 3 月 26 日

本資料は、平成 30 年 1 月 15 日から 1 月 29 日にかけて、学習支援センターIR 推進室が実施した「学修時間・学修行動調査（平成 29 年度後期）」の回答内容を分析したものである。当該調査は、平成 25 年度前期より、各期の終了後に 4 学部の 1～3 年生から学生を抽出して実施してきたが、前回（平成 29 年度前期）より無記名のまま悉皆形式へと切り替えた。

調査はこれまで同様、質問用紙と回答用紙を配布して、記入された回答を集計する方法で行った。調査の実施に際しては、教務委員の方々に各学部での取りまとめを行っていただいた。

回答状況を表 1 に示す。4 学部のすべての学年から回答が得られた。全在籍者数に対する回答率は、70.8%となった。

表 1 回答状況（学部・学年別）

	総合経営学部	社会学部	ソフトウェア 情報学部	薬学部	学年計
1 年生	61 名	62 名	39 名	49 名	211 名
2 年生	108 名	46 名	15 名	44 名	213 名
3 年生	65 名	38 名	26 名	46 名	175 名
4 年生	27 名	32 名	13 名	30 名	102 名
5 年生				23 名	23 名
6 年生				20 名	20 名
学部計	261 名	178 名	93 名	212 名	744 名

前回の調査から、悉皆化に加えて、質問内容にも次の三つの観点に基づき改善を加えた。

- ◇ 「授業評価アンケート」との重複を抑えるよう、個別の科目に関する質問を削減する
- ◇ 授業時間外学修に関して、より詳細に把握するべく、学修の種別（予習、復習など）ごとに充てている時間を調査する
- ◇ 大学生活の中での体験や学修に臨む際の姿勢や態度等を調査項目に追加する

また、今回の調査では、前回の質問項目より「大学生活で感じていること」を尋ねる 4 問と「大学入学後に体験したこと」を尋ねる 5 問を削減した。これらの項目に関しては、半期に一度ではなく、年一回（毎年度前期調査）で確認することにしたためである。調査用紙を、この資料の最後に添付する。

以降、それぞれの質問に対して、前期調査との比較も含めた分析結果をまとめる。

Q3. 平成 29 年度前期の履修科目数を記入してください。

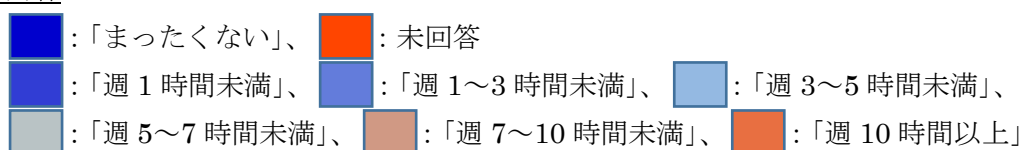







最終学年（薬学部：6年生、他の3学部：4年生）は、卒業研究や卒業論文に多くの時間をかけているため、それ以外の学年についてまとめたところ、平均受講数は 11.08、標準偏差は 3.55 となった。これらの値は、昨年度までの調査とほぼ同じである。なお、学部ごとの平均は 10.53（ソフトウェア情報学部）から 11.44（総合経営学部）までと全学とほぼ同様であった。一方、標準偏差については薬学部以外が 2.35（ソフトウェア情報学部）から 2.61（社会学部）までと全学よりも低めに、薬学部は 5.15 と高めになった。

また、前回と同様、学年が上がるにつれて履修科目数は減る傾向にあり、この質問の回答と学年(Q1_2)との相関は-0.70 であった。

Q4. 「典型的な一週間あたりの時間の使い方」について、以下のそれぞれの活動にかけている時間を選択肢から選んでください。

この質問では、授業時間外学修の状況を中心に、一週間あたりの時間の使い方を尋ねた。図中の配色は、時間が少ない順にそれぞれ次のようになっている。Q4 では、回答状況を示す図を、「ゼロ（未回答を含む）の者」と「実施している者」の回答の二つに分けて示す。

回答内容

 : 「まったくない」、 : 未回答
 : 「週 1 時間未満」、 : 「週 1～3 時間未満」、 : 「週 3～5 時間未満」、
 : 「週 5～7 時間未満」、 : 「週 7～10 時間未満」、 : 「週 10 時間以上」

ゼミ活動や研究室での研究活動にかける時間は、総合経営学部とソフトウェア情報学部が多く、薬学部は少ない結果となった（図 1）。全学、各学部とも前期調査と同様の傾向を示しているが、薬学部では充てている時間の内訳で「週 10 時間以上」の回答割合が増加した。これは、前回は得られなかった 5 年生の 9 割以上が実施していると回答し、その時間も多いためである。

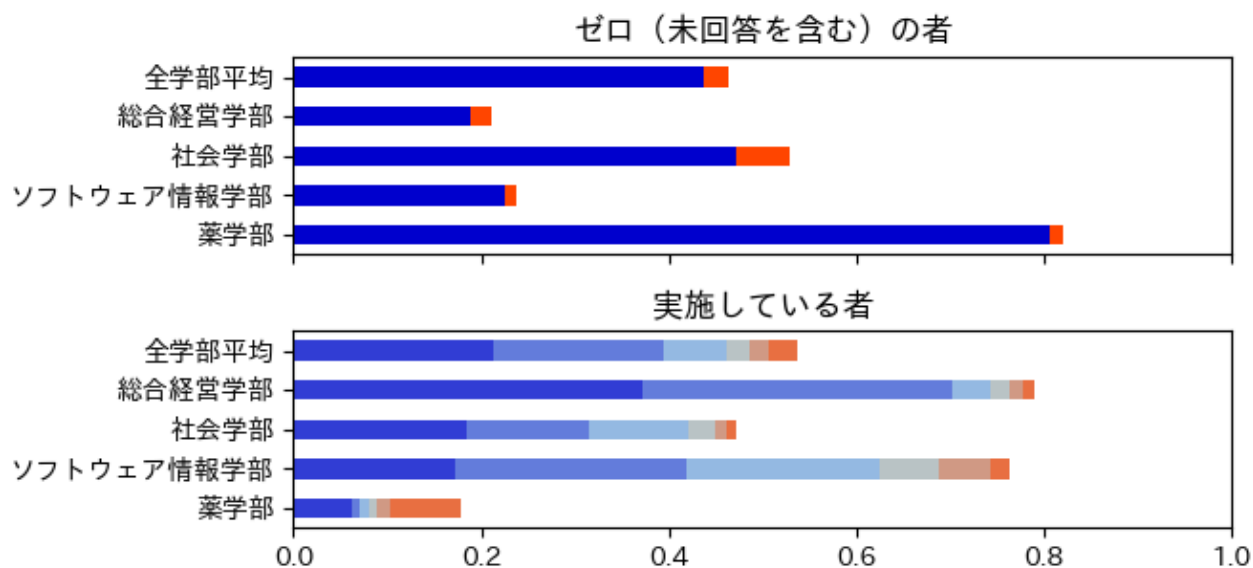


図1 「Q4-1. ゼミ活動、研究室での研究活動」の回答分布

授業の予習と復習に書ける時間は、図2や図3のような状況であった。前回と同様に、全体的には予習にかかる時間よりも復習にかかる時間が多い。とくに薬学部ではほぼすべての学生が日常的に復習を行っており、かけている時間が長い学生も一定数いることが分かる。

前々回以前の学修時間・学修行動調査（抽出形式、1～3年生対象）では、学修行動の内容と授業時間外学修時間を別々に調べており、直接的には比較できないものの、「予習は復習よりも行っている割合が少ない」、「予習時間は2年生になると少なくなる」といった共通点が見られる。

前回の調査結果と比較すると、総合経営学部で予習・復習の両方において「実施している者」が10ポイント増加しており、逆にソフトウェア情報学部と薬学部では予習を「実施している者」が10ポイント以上減少した。これらを含め、各学部において増減はあったが、全学ではおおよそ前回と同じ状況であった。

なお、Q4-2とQ4-3の回答はそれぞれ離散的であるが、これらの間には0.43とやや相関が見られた。

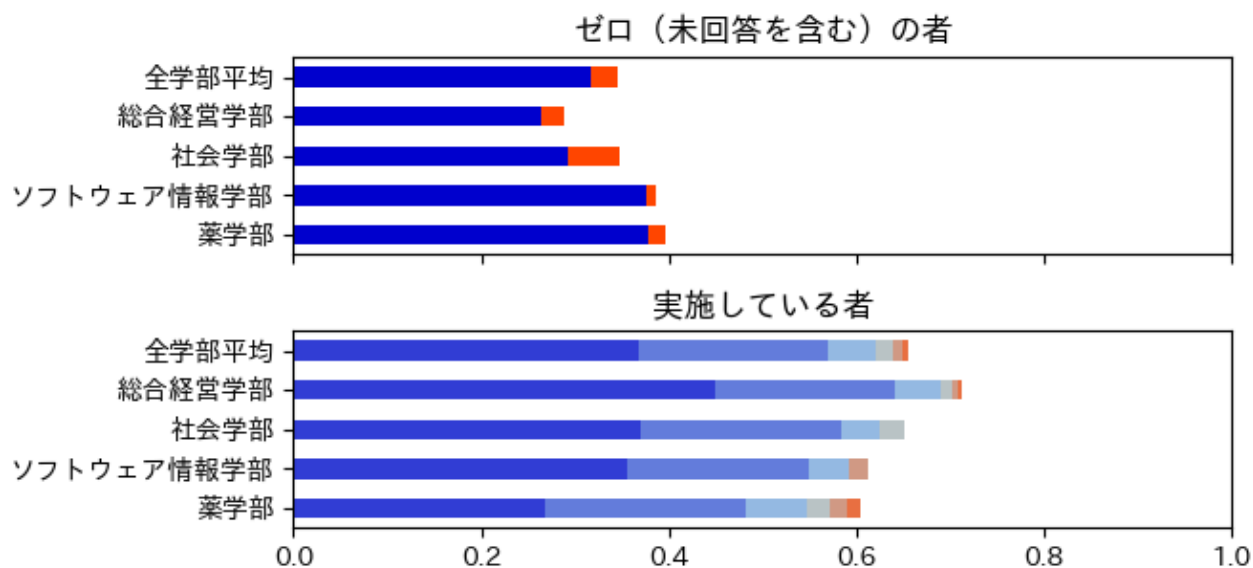


図2 「Q4-2. 授業の予習」の回答分布

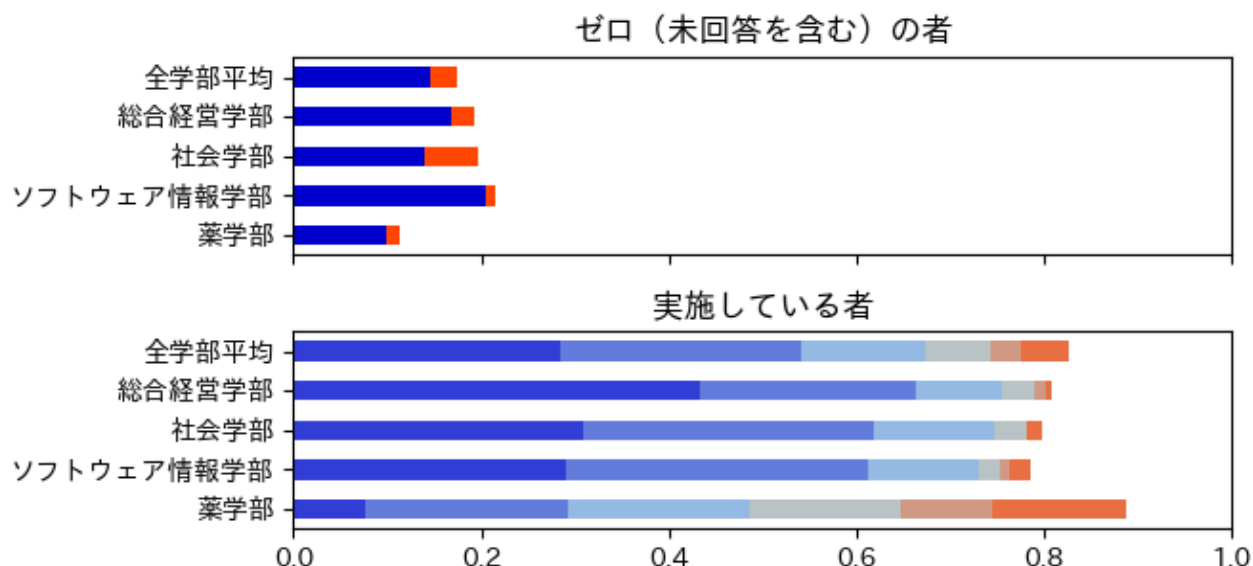


図3 「Q4-3. 授業の復習（宿題や課題を行う時間を含めて）」の回答分布

予習や復習と別の資格取得のためなどの自主的な勉強時間は図4のようになった。薬学部を除いて、図2で示した予習時間と似通った結果となった（かけている時間では図4が多い）。

前回調査と比較すると、「実施している」割合は総合経営学部で10ポイントほど増加し、他の3学部は数ポイントずつ減少している。全学では、これらがほぼ相殺し、前回より2ポイントほど多い59.8%の学生が何らかの自主的な勉強を行っている。また学年別では、1年次（57.3%）から3年次（65.7%）にかけて数ポイントずつ増加し、4年次で一度10ポイント大きく減り51.0%となり、就職活動の影響が見てとれる。なお、薬学部では5年次が56.5%、6年次が80.0%となっている。

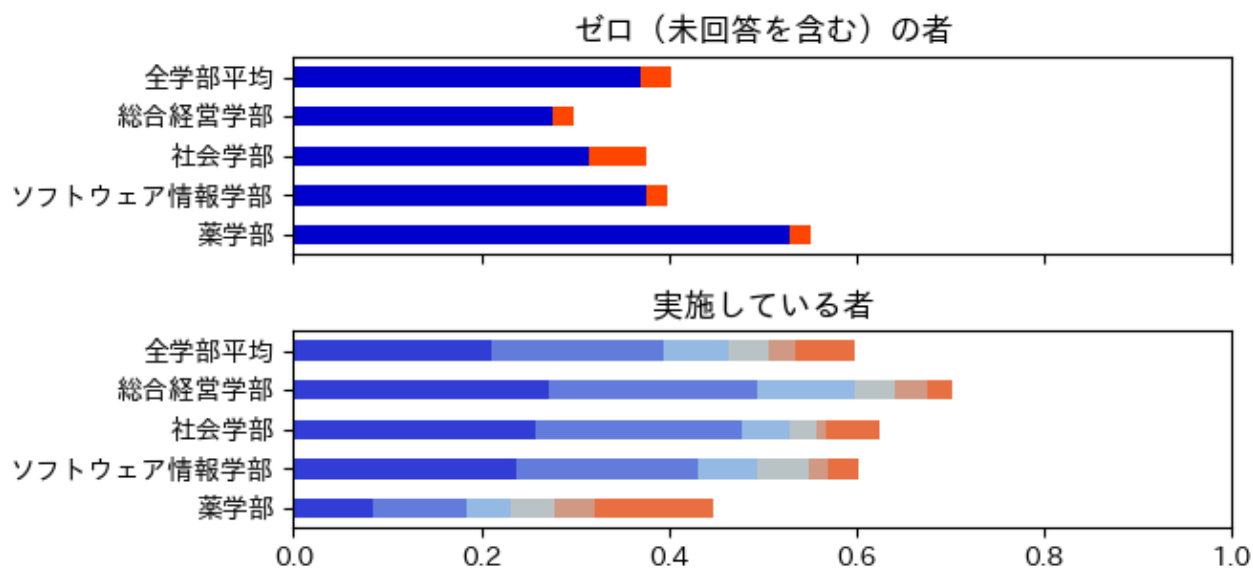


図4 「Q4-4. 資格取得のためなどの自主的な勉強」の回答分布

部活動・サークル活動にかける時間は、総合経営学部がもっとも多く、次いで社会学部、ソフトウェア情報学部の順となっている。週に5時間以上かけている割合は、総合経営学部：48.3%、社会学部：28.1%、ソフトウェア情報学部：12.9%、薬学部：5.2%であり、いずれも前回よりも微減（1.7～4.4ポイント）している。これらの値は3年次以降には急速に減少している。

大学外でのアルバイトや仕事にかける時間は、大学全体では前回と同じく半数弱の学生が「実施している」と回答した。週に5時間以上かけている割合は、総合経営学部：39.5%、社会学部：41.0%、ソフトウェア情報学部：33.3%、薬学部：14.6%であった。一方、これらを行っていない割合は、もっとも多い薬学部で75.9%、もっとも少ない総合経営学部で37.5%であった。前期と比較すると、5時間以上かけている割合は1.6～7.3ポイント増加している。学年別でも、前期と同様、2年次が6割弱ともっとも割合が大きく、次いで4年次の割合が大きい。

なお、アルバイトや仕事にかける時間の回答は、他のどの質問とも相関は見られなかった。

Q5. 「授業への参加や大学生活全般」について、以下のそれぞれの機会や状況がどの程度起きているかを、選択肢から選んでください。

この質問では、大学生活を、授業に取り組む意識（Q5-1～Q5-3）、主体的な学修（Q5-4～Q5-6）、授業時の教員の姿勢（Q5-7～Q5-11）、授業時間外の学修（Q5-12～Q5-14）、学生支援の状況（Q5-15～Q5-19）の五つに分けて、意識や状況を尋ねた。

図中の配色は、次のようになっている。

回答内容

: 「日常的にある」、
 : 「ときどきある」、
 : 「ほとんどない」、
 : 「まったくない」、
 : 「分からない」、
 : 未回答

授業に取り組む意識に関しては、「Q5-1. 正当な理由なく、授業を欠席する」ことが日常的にある、あるいはときどきあると回答した学生は、前回よりも数ポイント減少している。「Q5-2. 授業中は、集中して取り組む」や「Q5-3. なるべく良い成績を取るようになっている」に関しては、日常的あるいはときどきあるという回答がすべての学部で9割程度と、前回からの変化は見られなかった。

次に、主体的な学修に関する三つの質問では、授業時にグループワークや議論に積極的に参加すると回答した学生は全学で75.3%と前回と、学部間の差があまり無いことも合わせ、前回から変化は見られなかった（図5）。

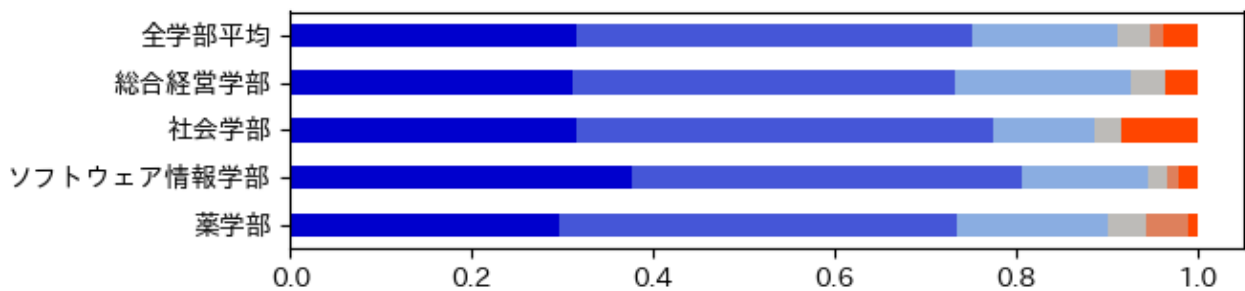


図5 「Q5-4. 授業内でのグループワークや議論に積極的に参加するようにしている」の回答分布

授業で疑問が生じた際に、教員や友人に質問あるいは書籍やネット検索を行うことについての回答分布は、図6と図7のような結果となった。社会学部では、未回答の学生が多いため他の学部よりも割合が低く見えるが、このことを考慮すると質問・ネット検索とも薬学部が突出しており、他の3学部はほぼ同じとなっている。

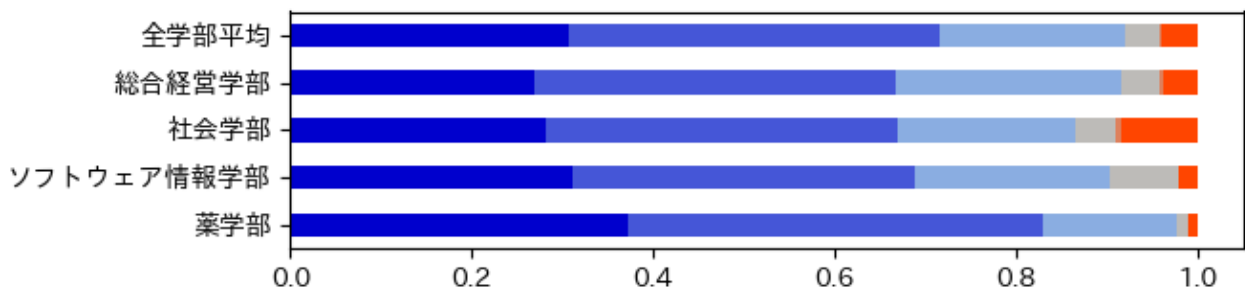


図6 「Q5-5. 授業で疑問が生じたときには、教員や友人に質問するようにしている」の回答分布

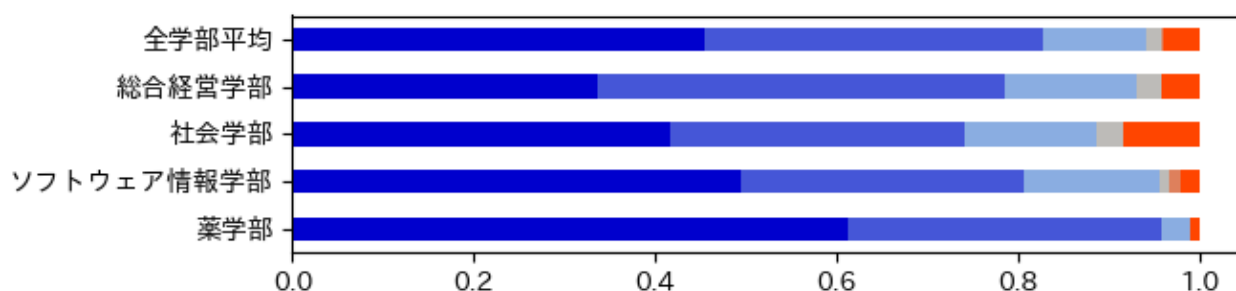


図7 「Q5-6. 授業で疑問が生じたときには、書籍やネット検索で調べるようにしている」の回答分布

授業時の教員の姿勢に関する六つの質問（Q5-7～Q5-11）では、「Q5-7. 授業時に、教員が内容や教え方を工夫していると感じる」では、「日常的にある」または「ときどきある」の割合が71.1%と、前回の60.1%より11ポイント増加している。学年別で伸びが大きかったのは1年次と2年次で、前回はこれらの割合は学年が上がるにつれて増加していたが、今回は薬学部6年生以外ではほぼ同じ値となっている。

「Q5-8. 授業中に、自分の意見や考えを述べる機会がある」と「Q5-9. 授業の中で、グループワークを行う機会がある」については、「日常的にある」と「ときどきある」の合計は、Q5-8では49.6%（前回は41.4%）、Q5-9では65.2%（前回は62.2%）であった。Q5-8については、学部別では社会学部とソフトウェア情報学部、学年別では1年次と2年次の伸びが大きい。なお、Q5-8とQ5-9の間には、0.56とゆるやかな相関が見られた。

「Q5-10. 自分が提出した課題などに、教員が添削やコメントを付けて返却する」では、「日常的にある」と「ときどきある」の合計が51.6%（前回は46.4%）と若干増加し、ソフトウェア情報学部が17ポイント伸びている。「Q5-11. 休講などで授業の予定が変更される」では、「日常的にある」が11.3%（前回は11.8%）とあまり変化は見られないが、学部別では薬学部で13.7%（前回は24.2%）と減った一方、ソフトウェア情報学部では24.7%（前回は1.9%）と大きく増えている。ソフトウェア情報学部の増加は、特定の教員が一定期間休講を繰り返さざるを得なかったのが要因と見られ（現在は対応済み）、次回以降の調査では割合が元に戻る可能性が高い。

授業時間外の学修に関する三つの質問（Q5-12～Q5-14）に関しては、自習室や教室などの学内スペースの利用状況は、図8のようになった。前回と同様、薬学部が突出している。

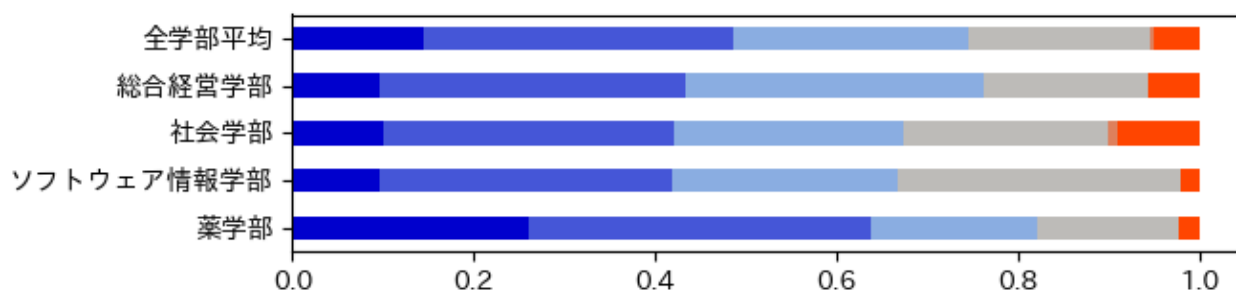


図8 「Q5-12. 授業時間外の学修のために、自習室や教室などの学内スペースを利用する」の回答分布

「Q5-13. 授業時間外の学修のために、インターネット上の情報を調べる」は、前回と同様の結果となった。ただし、この質問は Q5-6 と同様であり、前回調査では回答もほぼ同じであったが、今回はソフトウェア情報学部以外では Q5-13 の方が「日常的にある」と「ときどきある」の和が小さく、回答に揺れが生じている可能性がある。また、「Q5-14. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する」は Q5-12 と関連した質問であり、前回と同じく、回答分布は似たものとなり（図 9）、0.39 とやや相関が見られた。

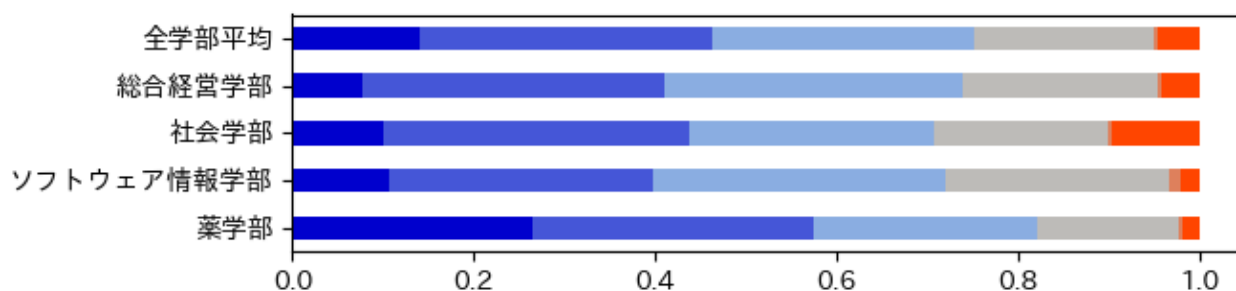


図 9 「Q5-14. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する」の回答分布

学生支援の状況に関する五つの質問（Q5-15～Q5-19）に関しては、他の学生や教員・職員と SNS を利用してコミュニケーションをとる学生は、「日常的にある」と「ときどきある」の両方で前回より微かに増えた。ただし、学部別では薬学部が両方とも 6～7 ポイント減少し、他の 3 学部は数ポイント増えている。

学業の面や人間関係などの学生生活全般で困ることが生じている状況は、図 10 と図 11 のようになった。前期は「日常的にある」と「ときどきある」の双方で薬学部が高めの傾向が見られたが、未回答も考慮すると、今回は学部間の差は縮まっている。

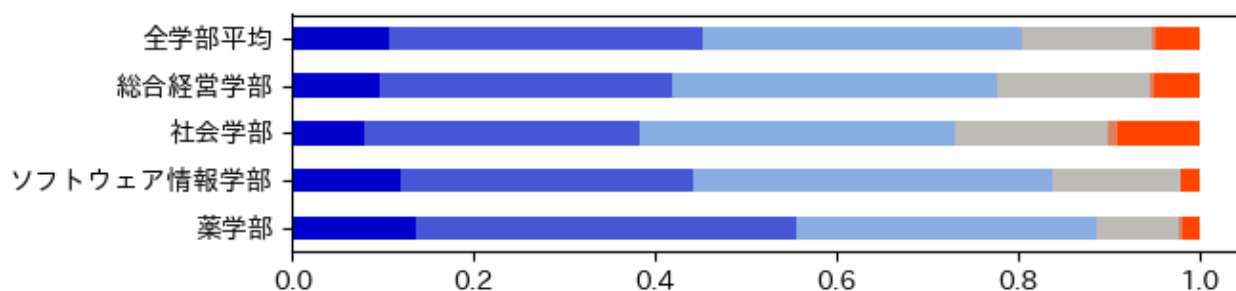


図 10 「Q5-16. 授業時間や授業時間外の学修など、学業の面で困ることがある」の回答分布

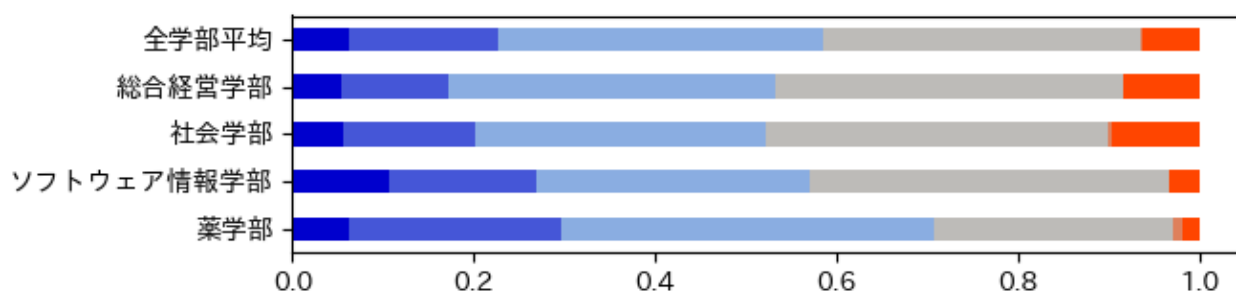


図 11 「Q5-17. 人間関係など、学生生活で困ることがある」の回答分布

学業の面や人間関係などの学生生活で困るときに、教員・職員に相談したり、学習支援サービスを利用したりする状況は、図 12 と図 13 のようになった。Q5-16 や Q5-17 の回答に照らすと、学業 (Q5-16) と学生生活 (Q5-17) のいずれかで「日常的にある」または「ときどきある」と回答したうち、教職員への相談 (Q5-18) や学習支援サービス (Q5-19) のいずれかに「日常的にある」または「ときどきある」と回答した割合は、社会学部が 6 割弱、総合経営学部とソフトウェア情報学部が 5 割程度、そして薬学部が 4 割程度であった。前回と比較すると、ソフトウェア情報学部で 8 ポイントほど増加しており、主に学習支援サービスの利用率向上がその要因となっている。学部別ではいずれも教員・職員への相談が学習支援サービス利用よりも多いが、学年によっては逆となっている。また、学習支援サービス利用に関しては、前は薬学部の 1・2 年次の利用割合が高い様子が見られたが、今回はとくにそのような傾向は生じていない。

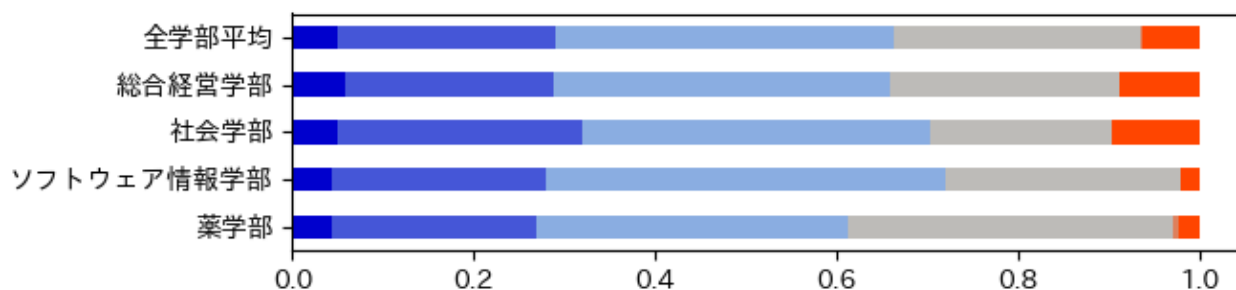


図 12 「Q5-18. 勉学や進路など、学生生活について、教員や職員に相談する」の回答分布

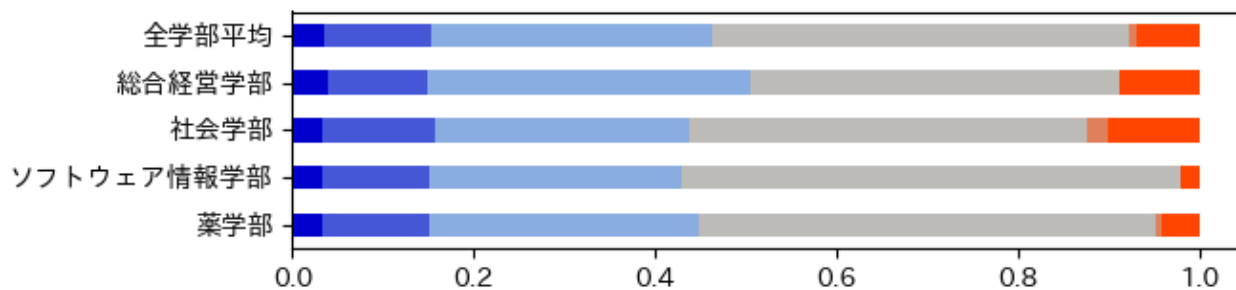


図 13 「Q5-19. 学習支援サービス（オフィスアワー、学習相談窓口など）を利用する」の回答分布

Q6. 学修環境をより良くするために、あなたの意見やアイデアを自由に書いてください

この質問に対しては、課題と考えられる点や改善意見など、以下の各項に関する合わせて 237 件（前回は 195 件）の意見やアイデアが寄せられた。以下に分類とそれぞれの主な内容をまとめる。

- 授業の方法や内容など
 - 授業内での議論やグループワーク、授業のレベル設定、教員ごとの違い、授業中の私語、休講や補講などの授業変更
- 学生支援
 - キャリア支援、学外での活動、教員・職員の接し方、掲示の方法や内容、本調査などで提案した意見の扱い
- 施設・設備
 - 建物や教室・演習室の利用可能時間、演習室やアクティブ・ラーニング教室、授業外学修を行う環境、ネットワーク環境、冷暖房の環境
- その他
 - 学生の自律意識、学外への情報発信

これらの内容は、前回までの学修時間・学修行動調査と同様のものも多い。寄せられた回答は、個人が特定されないようにした上で、内容を整理して学内で共有している。また、前回の調査に寄せられた意見・アイデアに関しては、主なものを抽出し学内関連組織（教務委員会、FD委員会、教学改革タスクフォース、学習支援センター、事務局）より回答を作成し、掲示で学生に示している。今回の調査についても、同様の対応を行う計画を立てている。

平成 29 年度後期 「学修時間・学修行動調査」

教務委員会、学習支援センター IR 推進室

この調査は、皆さんに日常の学び方について回答してもらい、現状を確認するとともに今後の本学の教育活動を改善させることを目的として実施するものです。調査へのご協力をよろしくお願いします。

平成 29 年度後期の状況について、以下の Q 1 から Q 6 までの質問への回答を回答用紙に記入してください。

個人の回答を公表することはありません。回答全体を集計・分析した結果は、本学 Web ページ (<http://www.aomori-u.ac.jp/service/ir/>) で公開するとともに、教育活動の検証・改善に用います。調査に関して疑問や質問がある場合は、担当の**もしくは事務局教務・学生課の**までお問い合わせください。

Q 1. 回答用紙のあなたの所属学部にもつ、学年を記入してください。

Q 2. あなたの性別にもつててください。

Q 3. 平成 29 年度 後期 の履修科目数を記入してください。

Q 4. 「典型的な一週間あたりの時間の使い方」について、以下のそれぞれの活動にかけている時間を選択肢から選んでください。

Q 4 - 1. ゼミ活動、研究室での研究活動

Q 4 - 2. 授業の予習

Q 4 - 3. 授業の復習（宿題や課題を行う時間を含めて）

Q 4 - 4. 資格取得のためなどの自主的な勉強

Q 4 - 5. 部活動・サークル活動

Q 4 - 6. 大学外でのアルバイトや仕事

Q 5. 「授業への参加や大学生活全般」について、以下のそれぞれの機会や状況がどの程度起きているかを、選択肢から選んでください。

Q 5 - 1. 正当な理由なく、授業を欠席する

Q 5 - 2. 授業中は、集中して取り組む

Q 5 - 3. なるべく良い成績を取るようになっている

Q 5 - 4. 授業内でのグループワークや議論に積極的に参加するようになっている

Q 5 - 5. 授業で疑問が生じたときには、教員や友人に質問するようになっている

Q 5 - 6. 授業で疑問が生じたときには、書籍やネット検索で調べるようになっている

Q 5 - 7. 授業時に、教員が内容や教え方を工夫していると感じる

Q 5 - 8. 授業中に、自分の意見や考えを述べる機会がある

Q 5 - 9. 授業の中で、グループワークを行う機会がある

Q 5 - 10. 自分が提出した課題などに、教員が添削やコメントを付けて返却する

- Q 5 - 1 1. 休講などで授業の予定が変更される
- Q 5 - 1 2. 授業時間外の学修のために、自習室や教室などの学内スペースを利用する
- Q 5 - 1 3. 授業時間外の学修のために、インターネット上の情報を調べる
- Q 5 - 1 4. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する
- Q 5 - 1 5. 他の学生や教員・職員と SNS を利用してコミュニケーションをとる
- Q 5 - 1 6. 授業時間や授業時間外の学修など、学業の面で困ることがある
- Q 5 - 1 7. 人間関係など、学生生活で困ることがある
- Q 5 - 1 8. 勉学や進路など、学生生活について、教員や職員に相談する
- Q 5 - 1 9. 学習支援サービス（オフィスアワー、学習相談窓口など）を利用する

Q 6. 学修環境をより良くするために、あなたの意見やアイデアを自由に書いてください

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。